

The story below is originally published on Mainichi Daily News by Mainichi Shinbun (<http://mdn.mainichi.jp>). They admitted inventing its kinky features, or rather deliberately mistranslating them from the original gossip magazine. In fact, this is far from the general Japanese' behavior or sense of worth.

このページは、毎日新聞事件の検証のための配信記事対訳ページです。直接ジャンプして来られた方は、必ずFAQをお読みください。

この和訳はあくまでもボランティアの方々による一例であり、翻訳の正確さについては各自判断してください。もし誤訳（の疑い）を発見した場合には、直接ページを編集して訂正するか[翻訳者連絡掲示板](#)に報告してください。

- [Ladies comics reflecting repressed sexual desires](#)
 - [激増するレイプ&SM願望症候群の女たち](#)
 - [週刊現代 1996/07/06 \(p.174-177\) との検証](#)
 - [記事についての意見](#)
 - [翻訳の変更](#)
- [元資料](#)
- [関連ページ](#)

Ladies comics reflecting repressed sexual desires

レディースコミックは抑圧された性的な願望を反映している

激増するレイプ&SM願望症候群の女たち

(*1)

激増するレイプ&SM願望症候群の女たち 1996,6,30

┆ [Ladies comics reflecting repressed sexual desires](#)

レディースコミックは抑圧された性的な願望を反映している
Shukan Gendai 7/6 タケシ イトウ

週刊現代 1996/07/06 (p.174-177) との検証

緑の文字は全て週刊現代 1996/07/06 (p.174-177) との検証結果です。

検証内における引用は全て上記より。

引用元タイトル: レディースコミックで検証「女性の性」が変わった!! 激増するレイプ&SM願望症候群の女たち

+ のボタンを押すと、引用元記事との検証結果が見られます (Java Scriptの実行を許可して下さい)。

特に記載のない部分については、元記事とほぼ同内容です。

...

1

"No,no!What are you trying to do?" questions a defenseless young woman,practically naked.
Her hands are tied to a bed rail behind her head.

「やめて、やめて！何をやる気なの？」ほとんど裸の、無防備な若い女性が問いかけます。
彼女の両手は彼女の頭の後ろにあるベッドの手すりに縛り付けられています。

2

"Master.I need your whip ... right now," begs another young woman in skimpy black lingerie.
She is on her knees with hands on the man's waist.

「ご主人様、私はあなたの鞭が欲しい...今すぐ」肌もあらわな黒いランジェリーをつけた、別の若い女性が施しを請うています。
彼女は跪き、男の腰にすがり付いています。

...

3

These X-rated descriptions might seem to belong to porno stories that regularly appear in men's magazines or tabloids.
But they aren't.

These erotic scenes come from an unprecedented kind of comic magazine for women.

Called rediisu komikku (Ladies' Comics),these specialist magazines reflect women's sexual fantasies.

Finding more and more scenes of rape and sadistic sex in these magazines,Shukan Gendai wonders whether they indicate women's

rising interest in violent or perverted sex partners or their growing tendency to indulge in wild sexual fantasies.

これらのいかがわしい記述は、おそらく、男性誌やタブロイド誌では毎度お馴染みのポルノ小説の類に見えることでしょう。しかし、これは違うんです。これらの官能的なシーンは、ある新奇なジャンルの女性向け漫画雑誌から来ています。レディースコミック (Ladies' Comics) と呼ばれるものですが、この専門的な雑誌は、女性の性的妄想を反映させているのです。

これらの雑誌から、いよいよ多くのレイプやサディスティックなセックスの場面を見つけるにつれて、週刊現代ではそれらが、暴力的だったり変態的だったりするセックスの相手に対して抱く女性の興味が高まりつつあることや、女性が狂気じみた性的妄想にふける傾向が強まりつつあることを表すのではないかと疑問に思うようになりました。

4

At the beginning of the four-page feature, the magazine profiles ladies' comics and their readership.

These monthlies specialize in graphic portrayals of young women's experiences, customarily including sexual ones.

There are a little over 30 such magazines published right now.

Shukan Gendai informs that the majority of ladies' comics readers are married women in their late 20s to early 30s who live in the countryside.

この雑誌は4ページの特集の冒頭で、レディースコミックとその読者の輪郭を描いています。

こういった月刊誌は、大抵は性的なものを含む、若い女性の体験のどぎつい描写を専門的に扱っています。

こういった雑誌は現在30誌ちょっと出版されています。

週刊現代はレディースコミックの読者の大部分は20代後半から30代前半の地方在住の既婚女性だと紹介しています。

+ ...

5

Shukan Gendai notes that ladies' comics have been known for their unreserved depictions of sexual fantasies, but their protagonists, always beautiful young women, used to sleep with nicer partners.

Rapists and sadistic men are recent additions.

Shukan Gendai reports that rapes and assaults on masochistic women are now standard features in these publications.

週刊現代は、レディースコミックは誰はばかすることのない性的妄想の描写で知れ渡っているが、これらの主人公は常に美しい若い女性であり、かつては自分よりも更に素敵なお相手とセックスしていたものでした、と指摘しています。

最近になって登場して来たのが、強姦魔とサディストの男です。

週刊現代は、マゾヒストの女性に加えられるレイプと肉体的な暴力は、今やこういった出版物にみられる標準的な特徴だと報告します。

+ ...

6

"Women who want to be raped always attach a condition--that the rapist must be a man they love, but are reluctant to approach," explains Yumi Hayashi, editor-in-chief of Kare-ni Himitsu (He Doesn't Know This).

"When they allow rape, it's always fornication in disguise."

「レイプされたいと願っている女性は常に1つ条件を付けます。

強姦魔は、私が愛していて、けれどアプローチしあぐねていた男性でなければならない、のだそうです」

彼に秘密 (He Doesn't Know This) の編集長であるユミ ハヤシは説明します。

「彼女たちがレイプを許すなら、それは即ちレイプに偽装された姦淫だということになるのです」

+ ...

7

A ladies comic fan, 21, agrees: "I want to be abused as long as it makes me feel good.

I don't mind a little rough play as long as the abuser promises to make me feel good later on.

But he must be really good looking."

21歳のレディースコミックファンは賛同します。「私は、気持ちよくなれるなら、虐げられたいわ。

虐待者が後で私を気持ちよくさせると約束してくれるなら、ちょっとくらい乱暴なプレイは嫌じゃないの。

けど、彼は本当にハンサムじゃないと」

+ ...

8

Mari Mizuno, the author of a bestselling book, Second Virgin Syndrome, tells Shukan Gendai that sexual liberation of Japanese women is not yet complete.

More and more Japanese women may be becoming economically independent, but many of them still find it difficult to approach men they desire.

Unliberated women can only turn to places like ladies' comics when they become stressed or sexually frustrated, analyzes Mizuno.

セカンドバージン症候群という本を描いた、ベストセラー作家の水野 麻里は週刊現代に、日本女性の性的解放はまだ完全ではないのだと語ります。

ますます多くの日本女性が経済的に自立してきているかもしれませんが、しかし彼女たちの多くは未だに、望む男性とお近づきになるのは難しいと考えているのです。

解放されていない女性がストレスに苦しんだり、性的欲求不満に陥った時にできることは、レディースコミックに目を向けることだけだと水野は分析します。

+ ...

9

Shukan Gendai suggests that ladies' comics readers are not eager to experience rape or sadistic assault.

They are simply using the radical portrayals to release frustration.

They can hardly try the same in real life.

週刊現代は、レディースコミックの読者はレイプやサディスティックな暴行を経験したがついていないと提言します。彼女たちは単に、ストレス発散のために過激な描写を使っているのです。彼女たちは、実生活でそういったことを試すことはほぼ不可能なのです。

+ ...

10

A 22-year-old ladies' comics reader endorses the magazine's view. She confesses, "I can't tell my boyfriend to do exactly what I want him to do when we make love. I'm sure he will hate me for saying such a thing. Of course, I don't want him to hate me, so I just keep quiet and pretend."

22歳のレディースコミック読者は、この雑誌の見解を裏打ちします。彼女はこう告白します。「私はボーイフレンドに、セックスしている時に私が彼にして欲しいと思ってることをするようになって、はっきり言えはしません。そんなことを言ったら、彼が私を嫌うだろうことは解りきっているからです。勿論、私は彼に嫌われたくありません。だから、私はただ沈黙を護って、取り繕うのです」(タケシ イトウ)

+ ...

+ ...

記事についての意見

<http://yy64.60.kg/test/read.cgi/ccxc5vip/1221578185/>

98 名前：松崎名無しげる[sage] 投稿日：08/09/20(土) 10:02:07 ID:F52fPm1v
思ったのですが、女が積極的だと「主人公が軽い」と思われるからじゃね？
ただ致すよりは、レイプやらSMを出さないと話が膨らまなくね？
主人公の波瀾万丈な人生を次はどうなるんだろう？と、読むのが漫画とか小説じゃね？
元記事からおかしくね？(男性向け雑誌なので仕方ないです)

あと、1996年って、ボーイズラブ(当時は呼び方違った気もする)の本も出てたんですが、レディースコミックより、ボーイズラブの本の方が人気ありますよね？
男が女王様にギリギリ締められてるのよりは、レズのエロ漫画の方が人気あるのと一緒に、受け身なのが自分と同性だと、自分と重ねて見なくて済むから笑って読めるというか(真性Mっコは大喜びだろうけども)
気になって楽天ブックスでレディース向け雑誌の売り上げ順で見たら、1~2位がBLで、3位が子育ての雑誌だったwww

もう一つ思い出したので余談
こういうエロ雑誌(漫画含む)の体験談は、売れない作家がバイトで書いてると、昔、知り合いのあまり売れてないらしい作家から聞いた(本人も書いたそうです)

105 名前：松崎名無しげる[sage] 投稿日：08/09/21(日) 01:07:59 ID:a8rnJF0k
>>98
お疲れさまです。
参考にどうぞ。
藤本由香里「少女マンガのセクシュアリティ ~レイプからメイドへ~」
<http://www.tinami.com/x/interview/>

レディコミの元記事画像が見てみたいですが、見当たらなくなってしまいました、知ってる人いたら教えてくださいね。

--ここからは個人の印象--
80年代後半から90年代前半くらいの少女~女性漫画雑誌は凄まじい乱立でして、これが90年代半ば以降、休刊・廃刊ラッシュが...
連載途中でつぶれた雑誌がどれだけあったか。
ただ、読み捨て系のレディコミはそれなりに売れてるみたいですよ。
過激さは「性」に特化したもの、「ホラー」系、「愚痴・悪口」系など
エロだけが売りの市場は縮小してるんじゃないでしょうか？
姑が憎いだの、ご近所に鬼嫁がいるだの、その手の実話を煽った表紙はよく見かけますが、性的な過激さを表紙にしているものはたまにしか見ないです。
ホラーはよくわかりません、男女関係なさそうなのにレディコミの近くに並んでることが多いですね、性描写を含んでいるのかも、
ホラーは読み捨てじゃないのかもしれない。

読み捨てじゃないレディコミはwikipediaではヤング・レディースコミック雑誌に分類されてました。
ネットには読み捨て系のレディコミの情報が本当に少ない。
読み流すものであって収集したり論評したりするものとは思われてないのでは？
3Pだのださいタイプの男に狙われるだの、読み捨て系のノリではないでしょうか。
ホラーも一時すごいブームでしたが1996年と同じ頃じゃないですかね。
レイプものも恐いもの見たさで読んでた人がいる気がします。
あ、waiwaiではホラーも心理的マスターベーションでしたか、

読み捨て = その雑誌のレーベルから単行本がほとんど出ない、
または単行本用のレーベルがそもそもないという意味で使っています。

翻訳の変更

注：検証作業に伴い、パラグラフの構成を元記事通りに改めました。

第3節

考えるようになりました

疑問に思うようになりました

第5節

と注記します

と指摘しています

第7節

加害者

虐待者

第10節

懺悔します

告白します

上記全て2008/09/27に変更

元資料



関連ページ

- [記事元ネタとwaiwaiとの違い](#)
- [元記事一覧](#)
- [WaiWaiの記者一覧](#)
- [ピラのキャッチフレーズとコネル氏の記事との対応表\(仮\)](#)
- [紙媒体MDN時代のwaiwaiタイトル1996年](#)